

好古
集覽

革究圖考

完

第二五〇號



特別
ケ 5
986



田代文政



獅子の文章



菱菊の文章



八幡の文字入文章

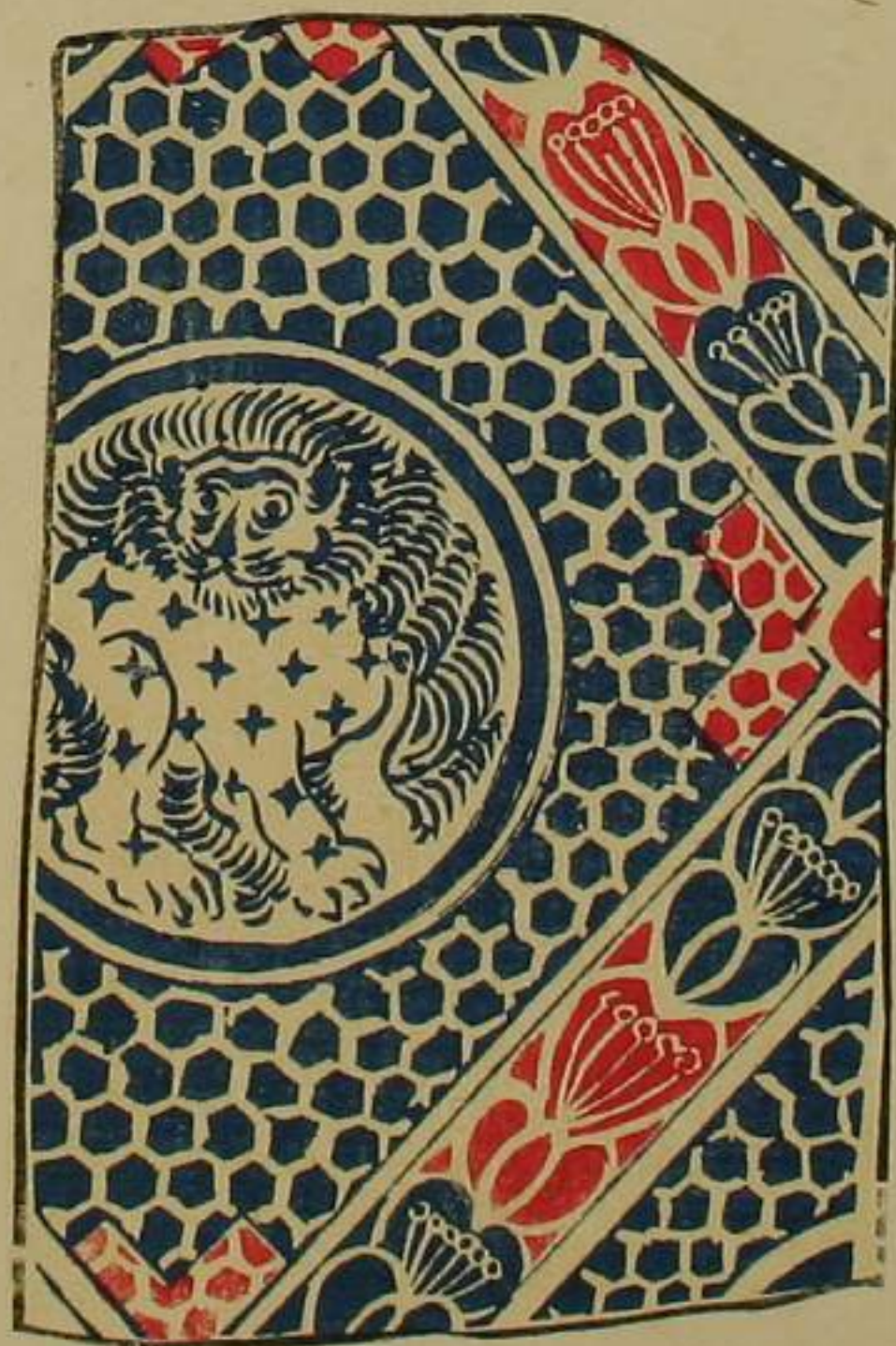


獅子唐花文章



梵字入獅子文章

天平十二年八月
御免章と云ふ正平章の前にも御免章あり



獅子圓文章



菱文の文章



不動尊像文章

義家卿弦走



不動尊文章

古甲由所見
豊文子藏



不動尊文章

佐々木盛綱の
弦走



花菱文章



獅子文章

新羅三郎義光
甲冑

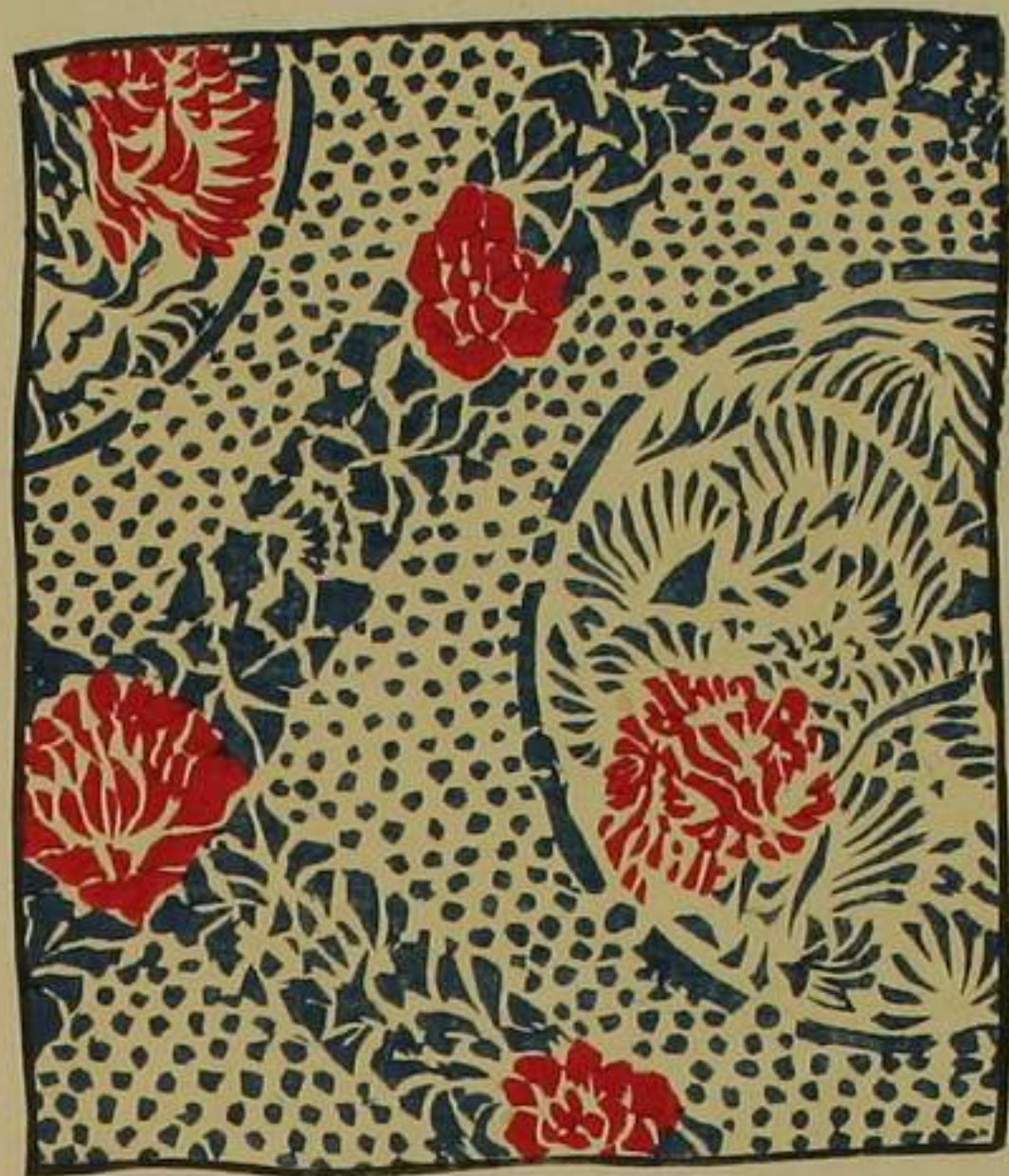


亀甲形文章

義家卿
甲冑

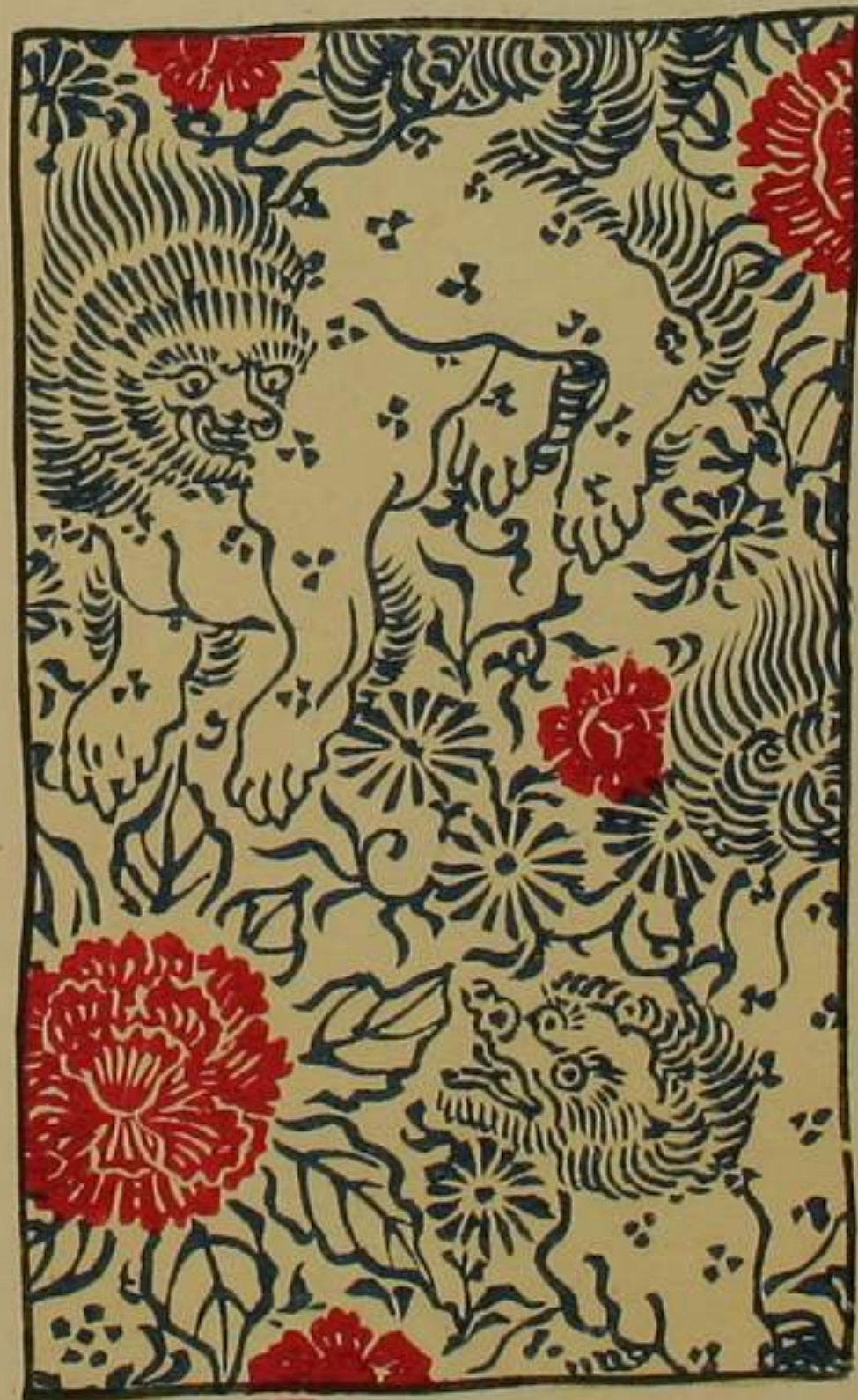


雑文の画章



獅子九菱文章

重盛卿の
甲冑



獅子牡丹の文章



獅子唐花文章



獅子の文章



獅子の文章

義経朝臣
甲冑



雲珠の文章



鳩菱の文章



蝶唐草の文章



風伯の文章



雷公の文章

頼朝公
甲冑



圓文画章



獅子菱文章



獅子圓文章



獅子面文章



月星入獅子文章

挿正成
甲冑



龍文章

大内義隆
甲冑



亀甲形文章



鳳凰圓文章



窠形細文繪章

六曜巴文章



梵字八龍文章

大内義隆
強走章



不動尊像文章

義家朝臣
吹返の章



獅子の文章



禽の文章



圓文画章



龍の文章



波兔の文章



圓文章



龍の文章



牡丹蝶文章



牡丹獅子文章

義経朝臣
弦走

獅子牡丹文章

義経朝臣
弦走



獅子面文章





鴛鴦の文章



龍の文章



菱の文章



虎の文章



俱利伽羅の文章



圓花の文章



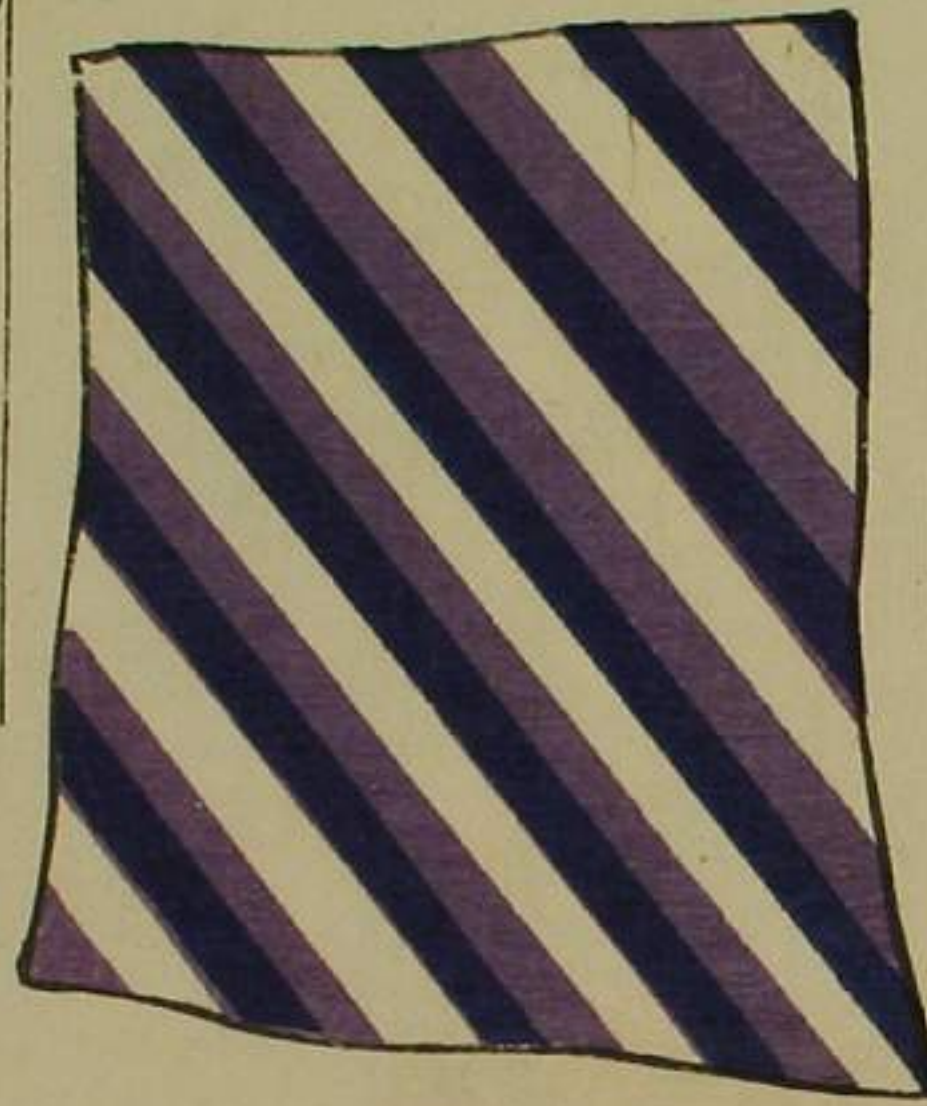
籠目の文章



虎の文章



伏繩目章



總目章



纈章



目結章



摺繩目章



總目章



纈絞章



繁目結章



總目章
色雜



纈章



目結鹿子章



錦
韋



細
文
韋



錦
韋



紫
錦
韋



御
免
錦
韋



細
文
韋



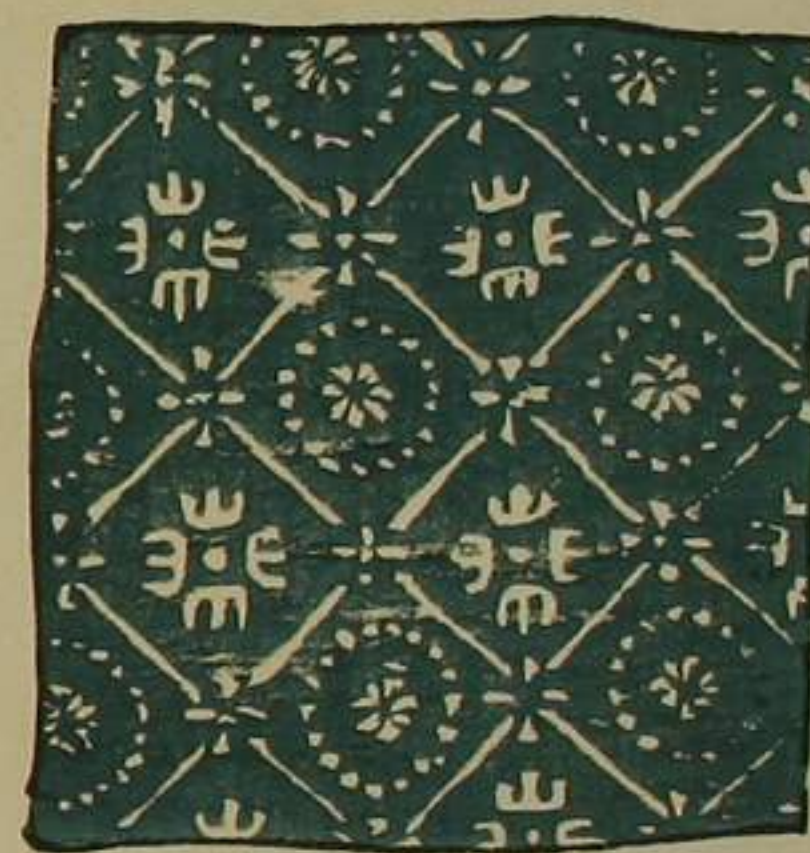
細
文
韋



錦
韋



錦
韋



細
文
韋



細
文
赤
韋



黄小返文章



細文赤韋



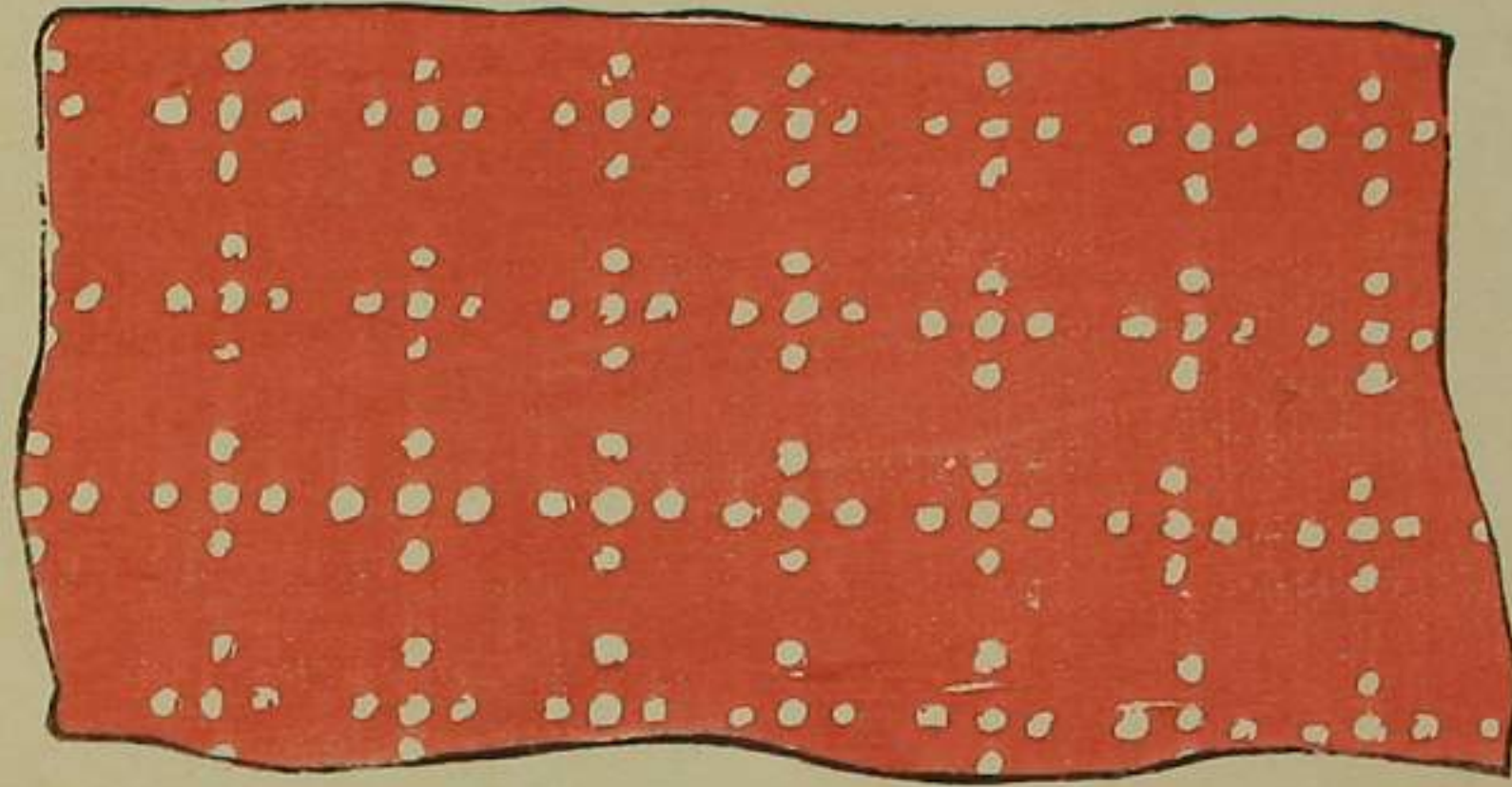
細文韋



藍小櫻韋

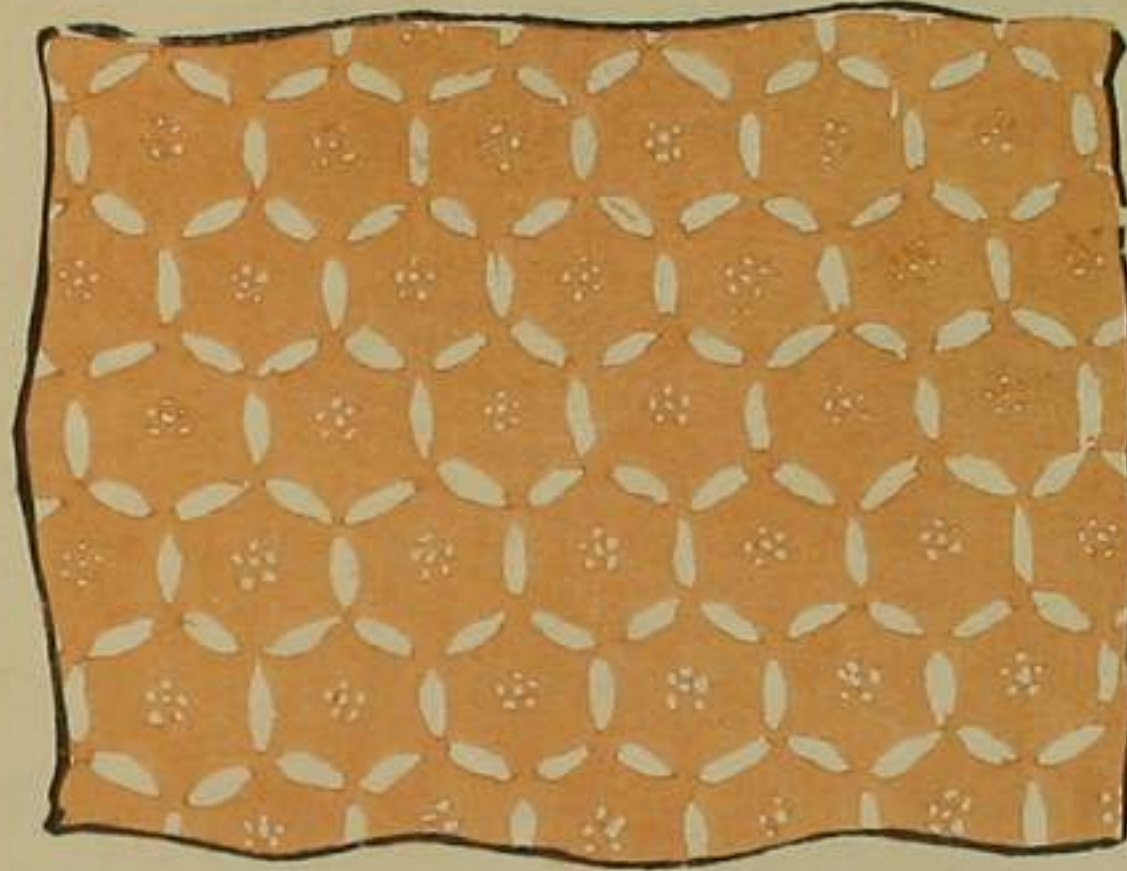


黒小櫻韋

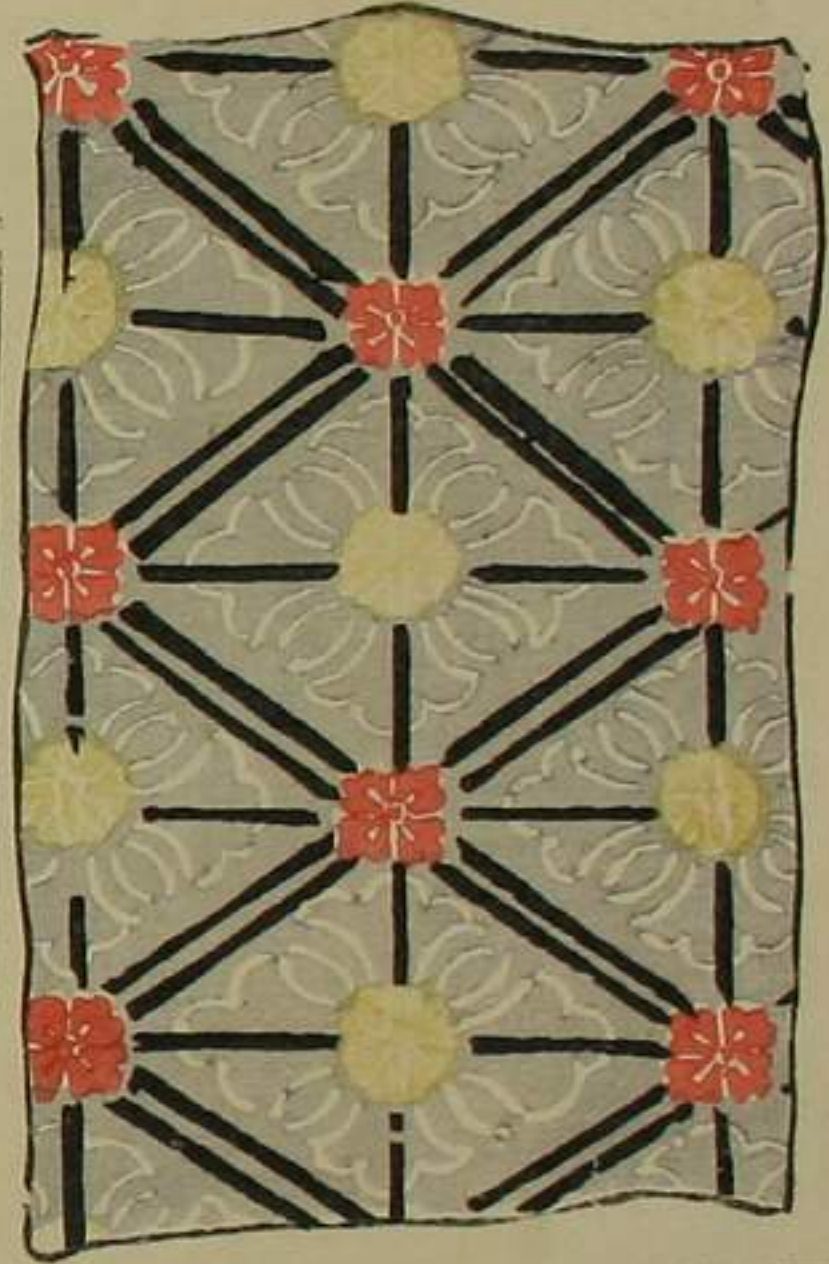


五星韋

細文韋



錦韋

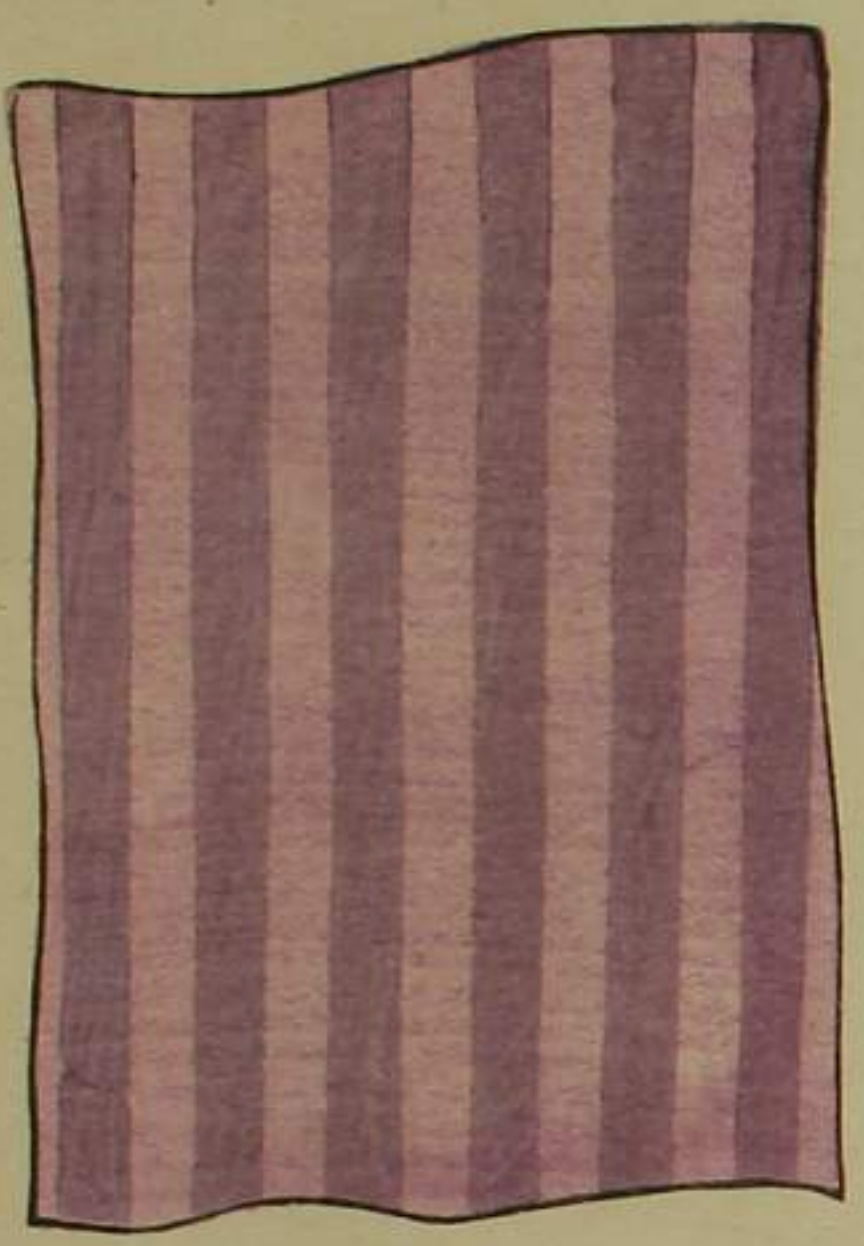


錦韋



細文韋

色筋章



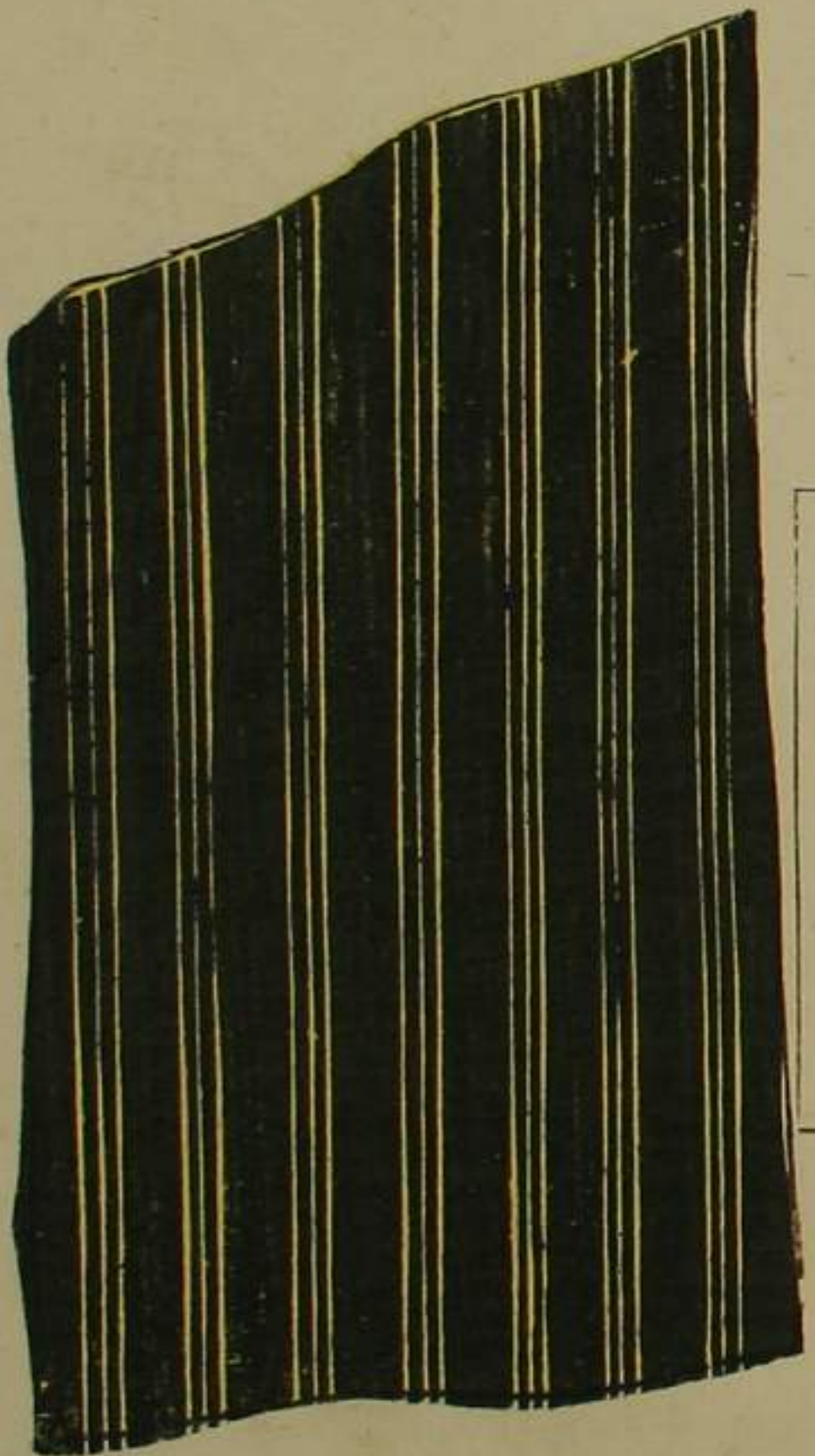
引目章



横筋章



伏縄目章



引目章



引目章



引目黒章



色筋章



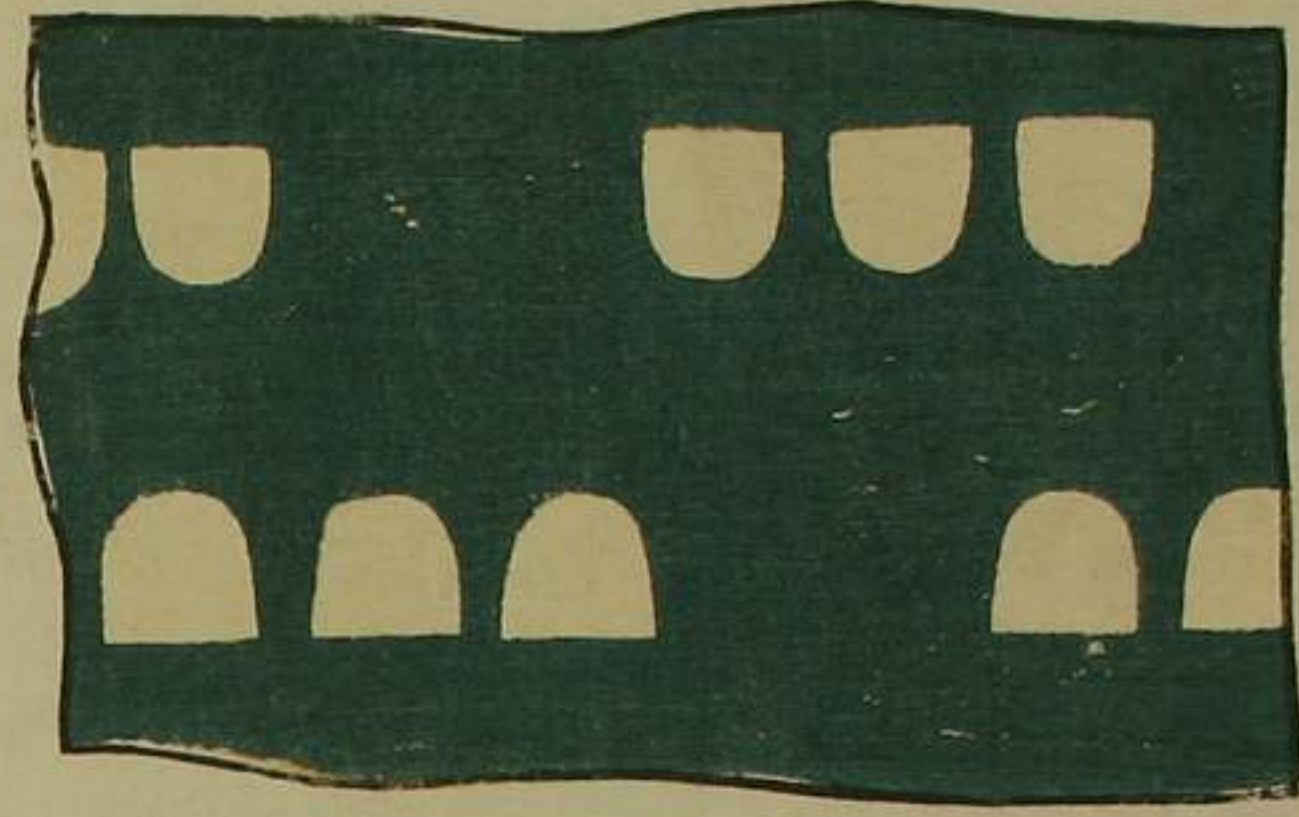
糸引目章

家形
菖蒲章



蘆雁
菖蒲章

杉立
菖蒲章



瓜形
菖蒲章



異文
菖蒲章



楓鹿
菖蒲章

薄
菖蒲章

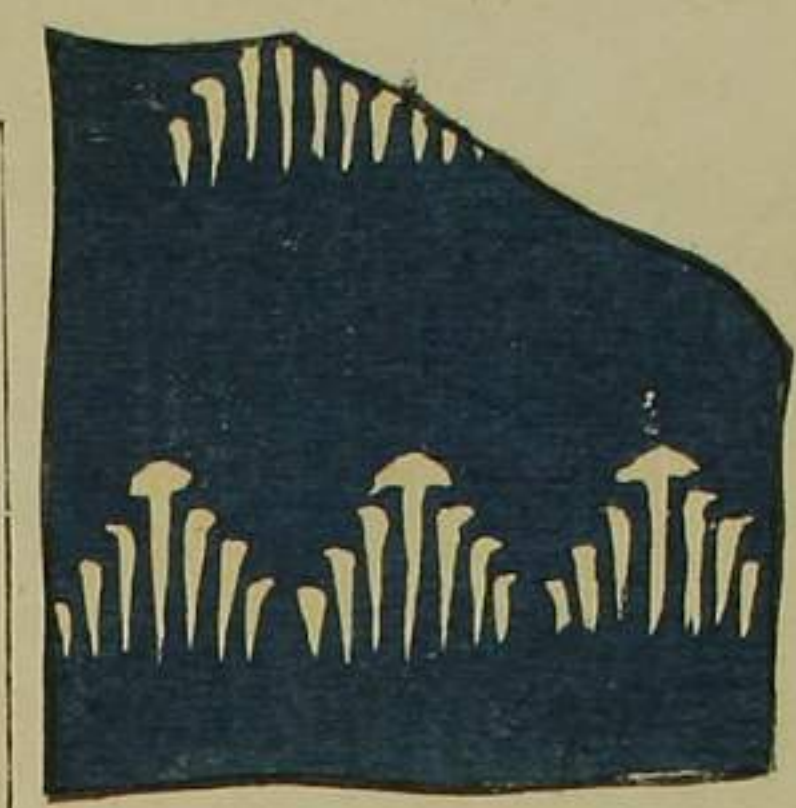




水
菖蒲
韋



横
菖蒲
韋



釘
菖蒲
韋

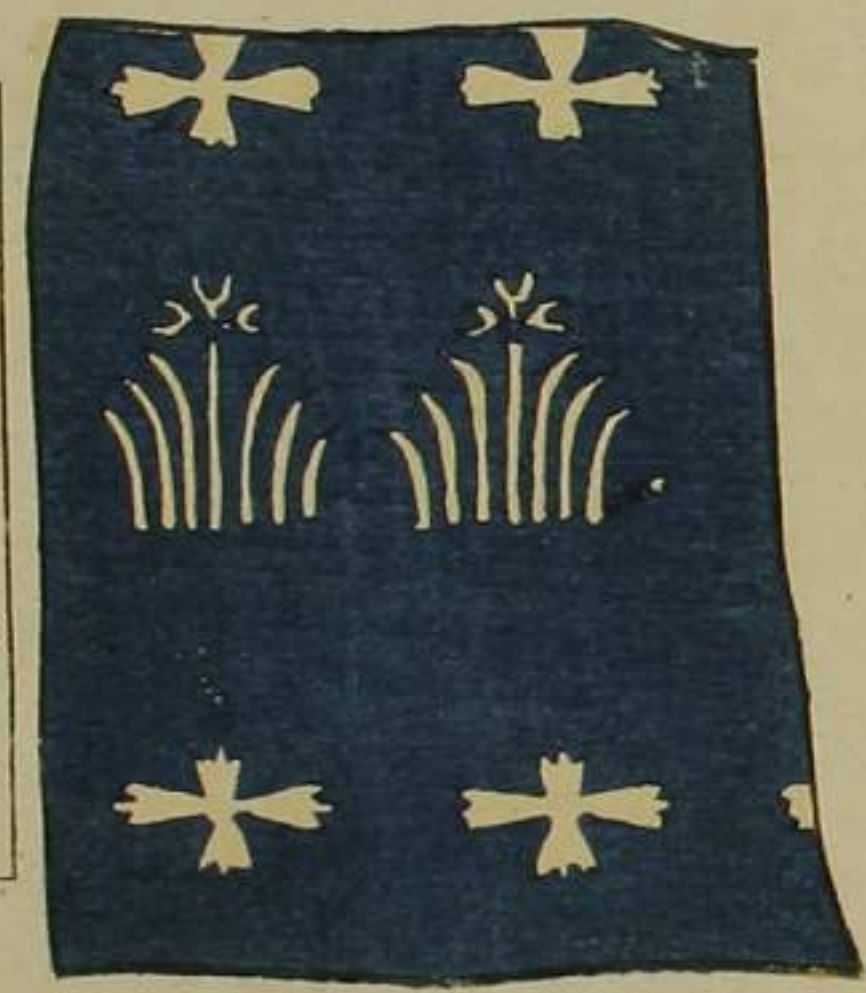
豎
菖蒲
韋



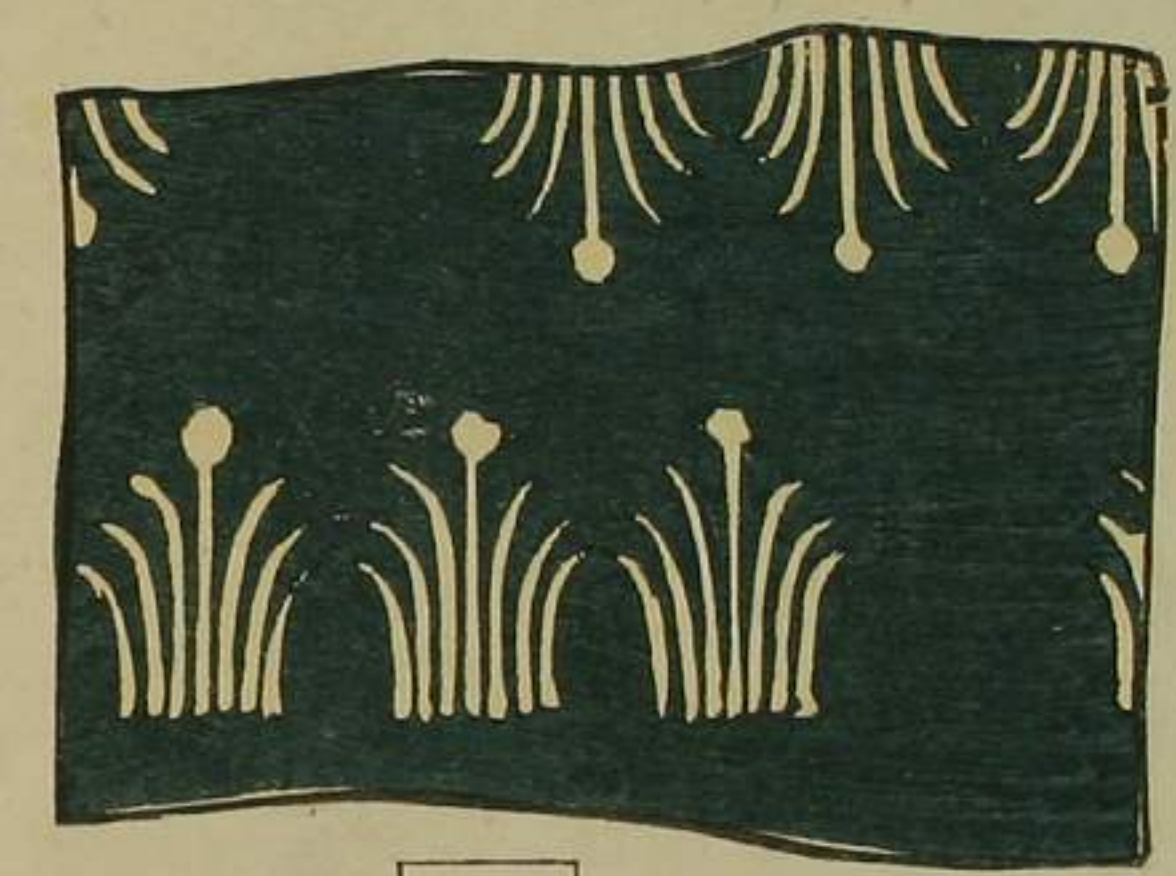
杉
菖蒲
韋



比
花
菖蒲
韋



鱗
形
菖蒲
韋



菖
蒲
韋



野
馬
形
菖蒲
韋



勝
見
菖蒲
韋



鴉カラス
卷マキ
章シラ



小コ
櫻オウゴン
熏カキ
章シラ

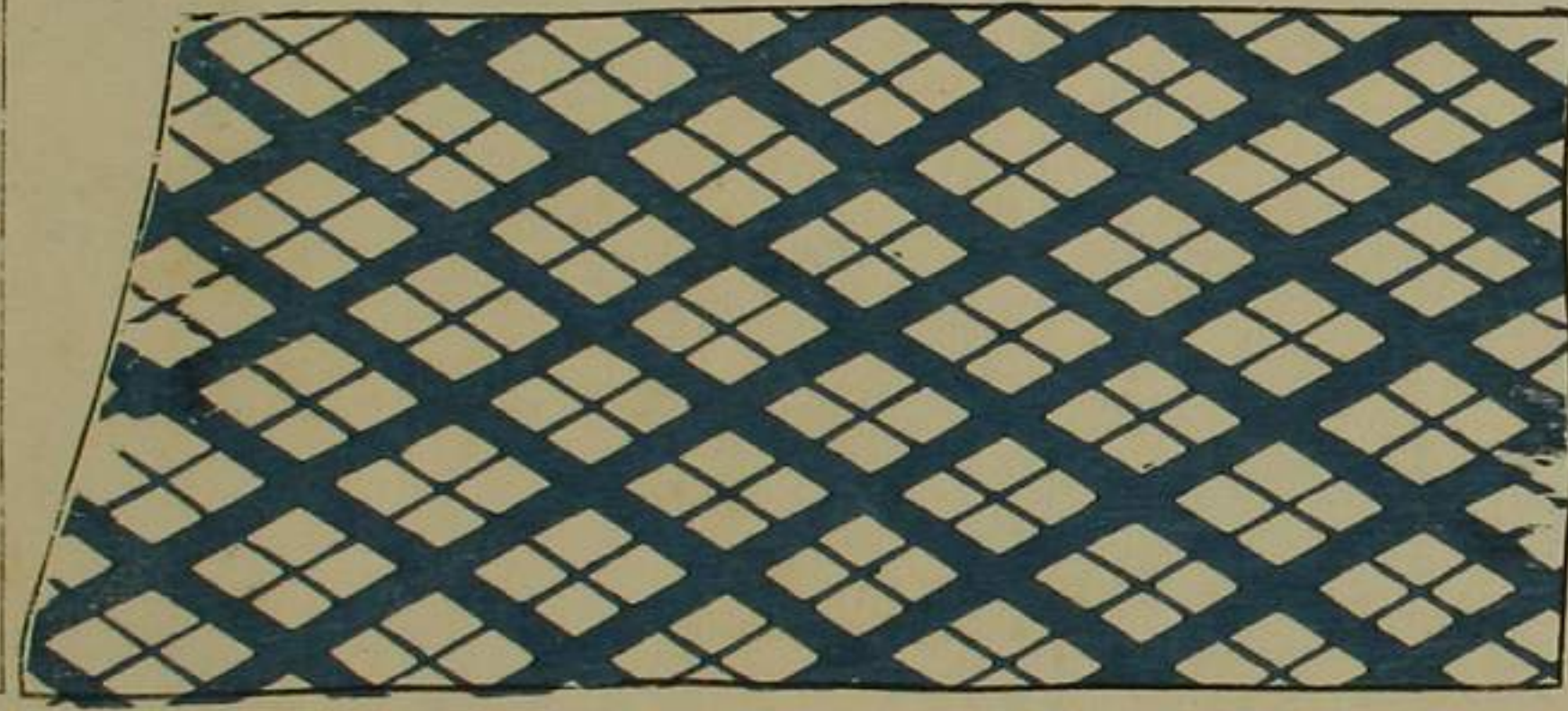


齒ハ
朶ノボ
章シラ

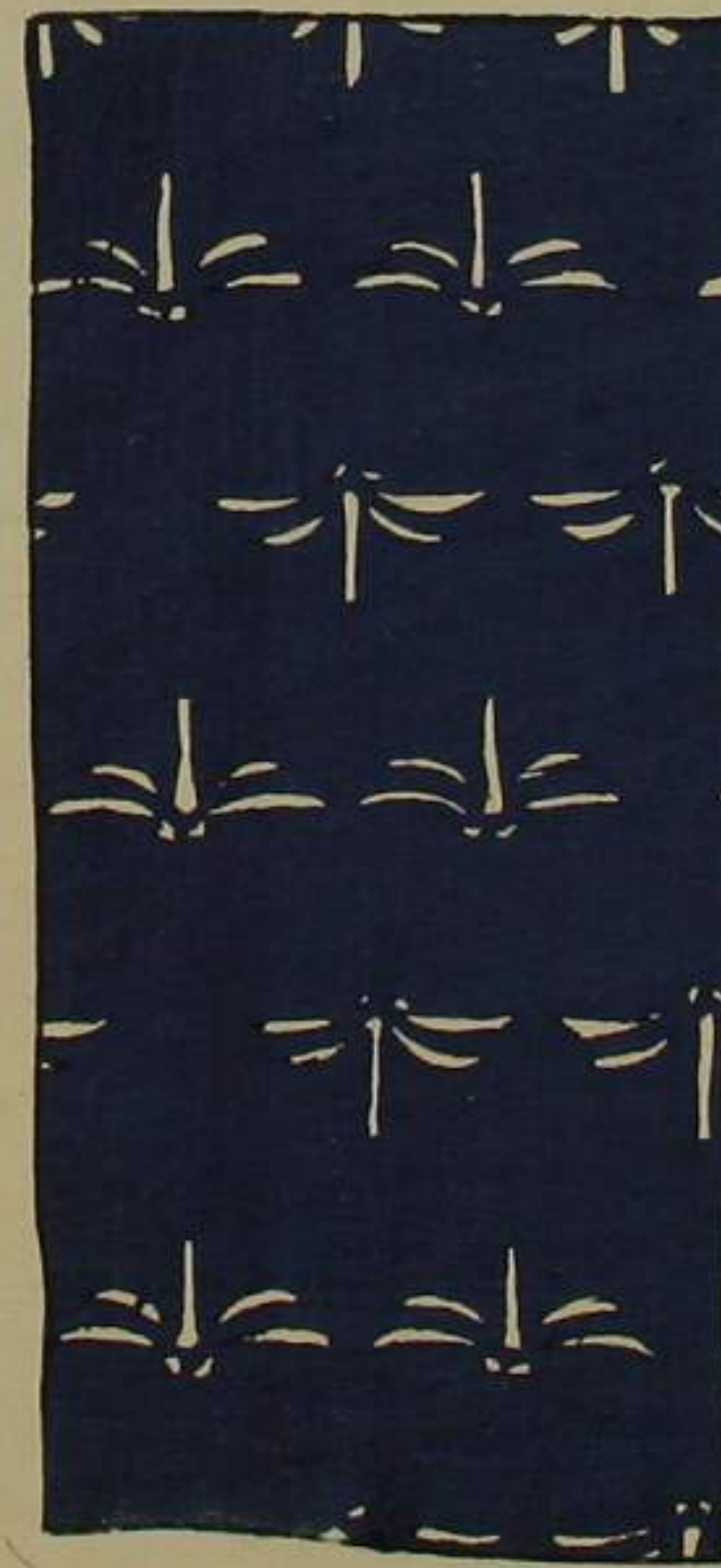


齒ハ
朶ノボ
章シラ

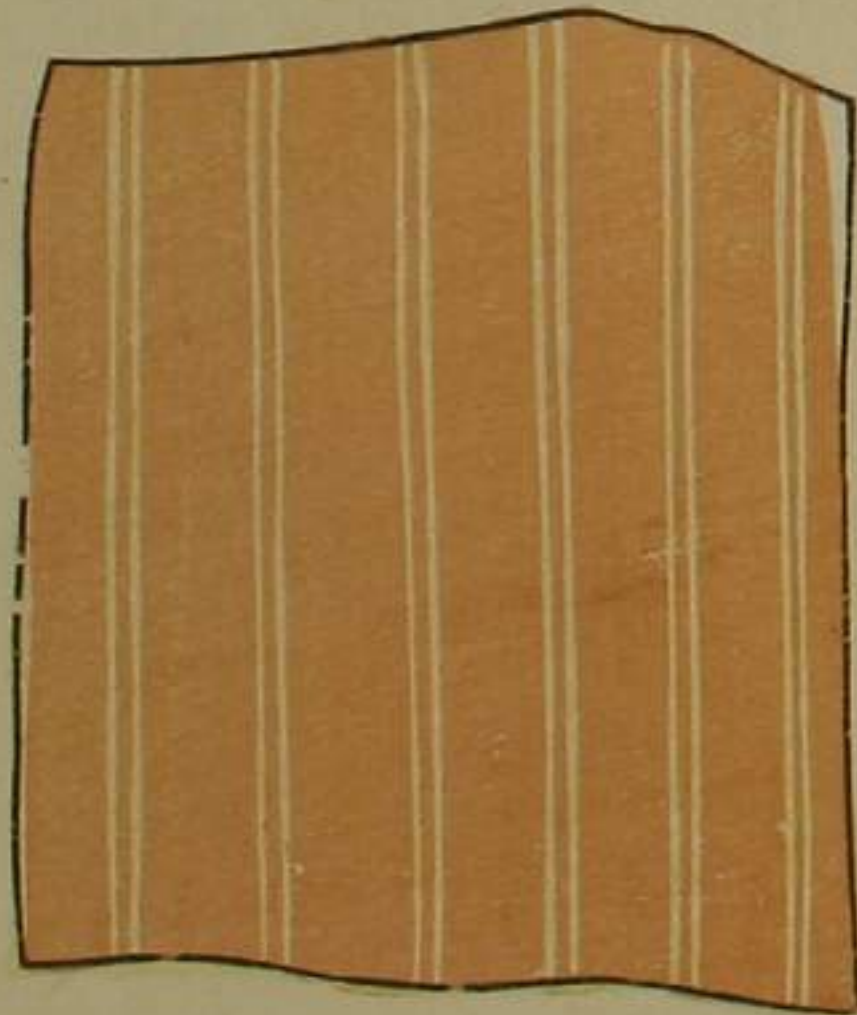
鈍ツル
色イロ
熏カキ
章シラ



熏カキ
竹タケ
助タケ
章シラ



蜻トビ
蛉ムシ
菖イモ
蒲ボ
章シラ



濃コ
柑カン
子シ
章シラ



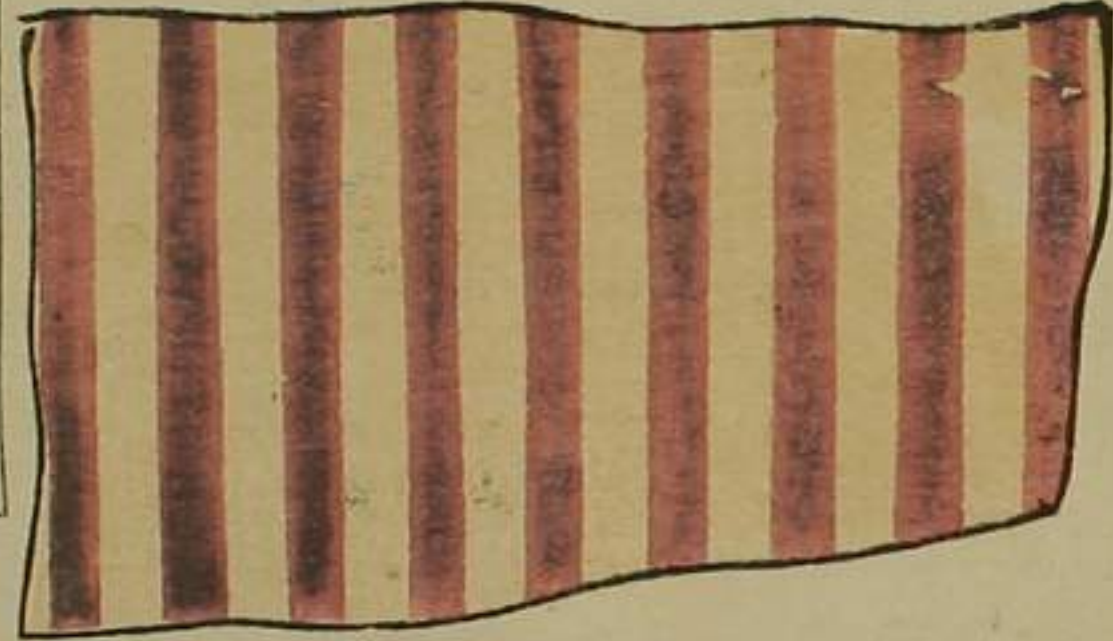
角ツノ
形カタ
菖イモ
蒲ボ
章シラ



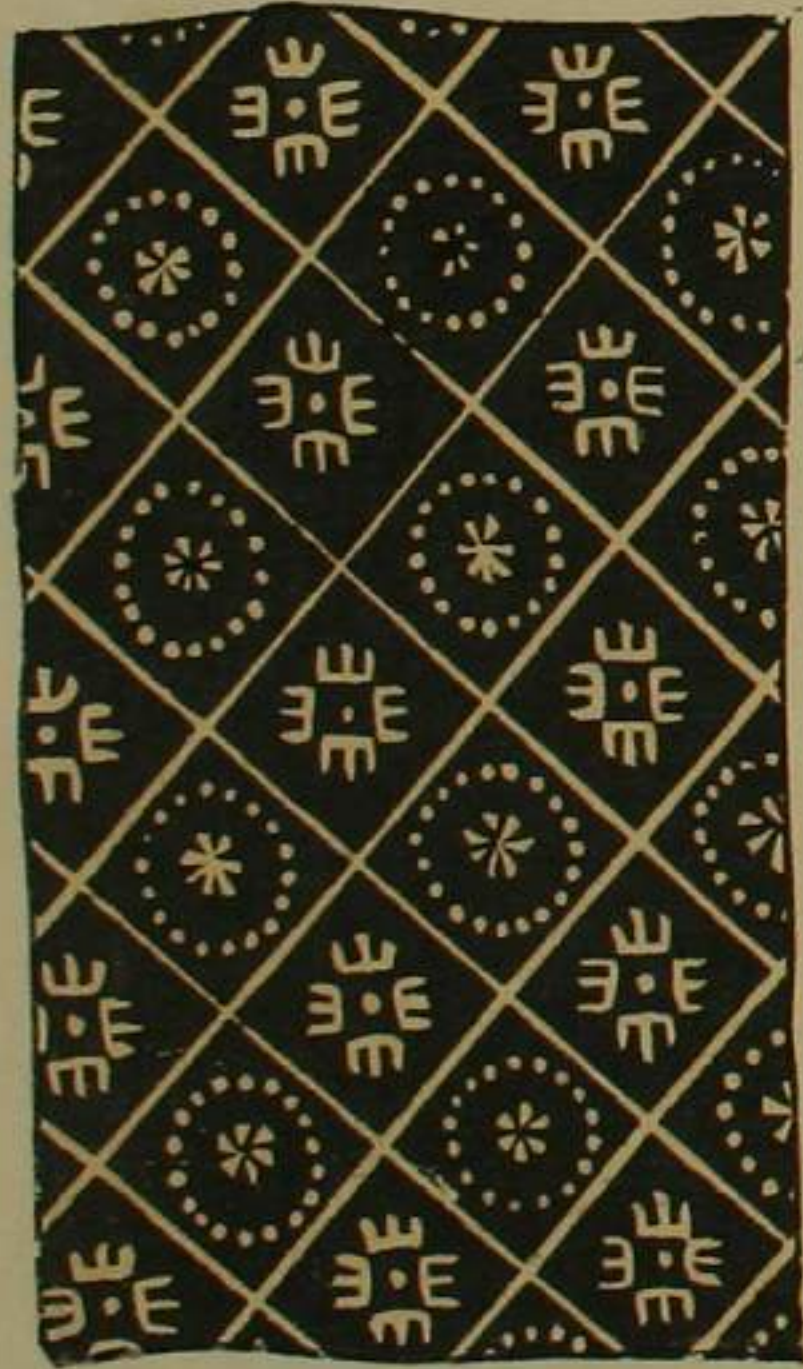
花鳥藍韋



齒筋韋



細文黒韋



松皮細文韋



紫筋韋



紫細文韋



蝶鳥細文韋



澤瀉細文韋



小櫻搗韋





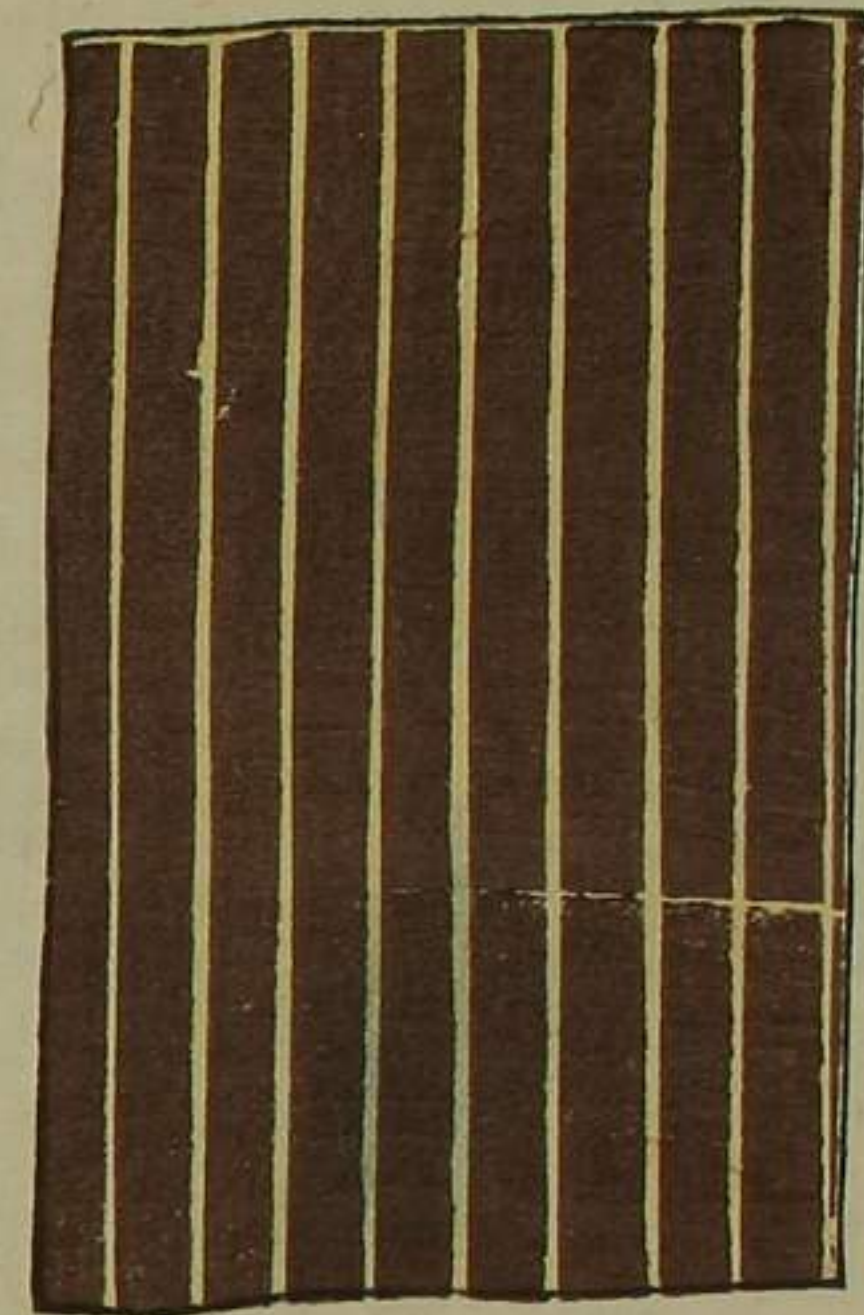
浅黄の文章



黄白地文章



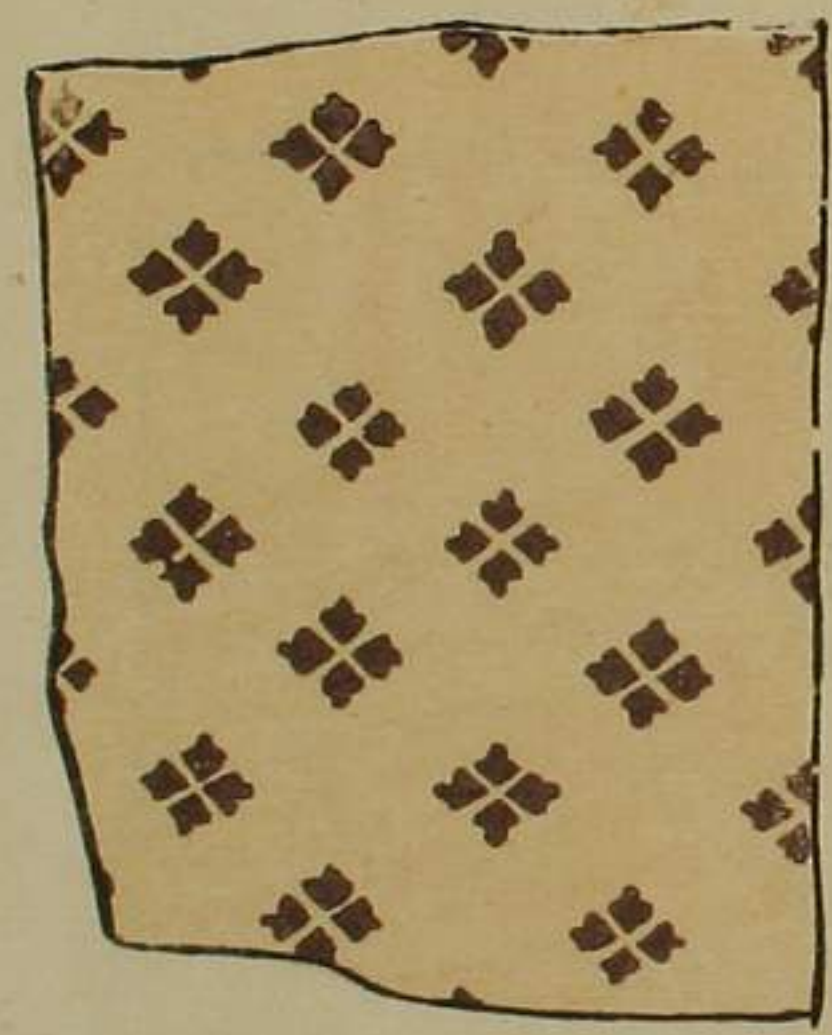
濃熏草



巻熏草



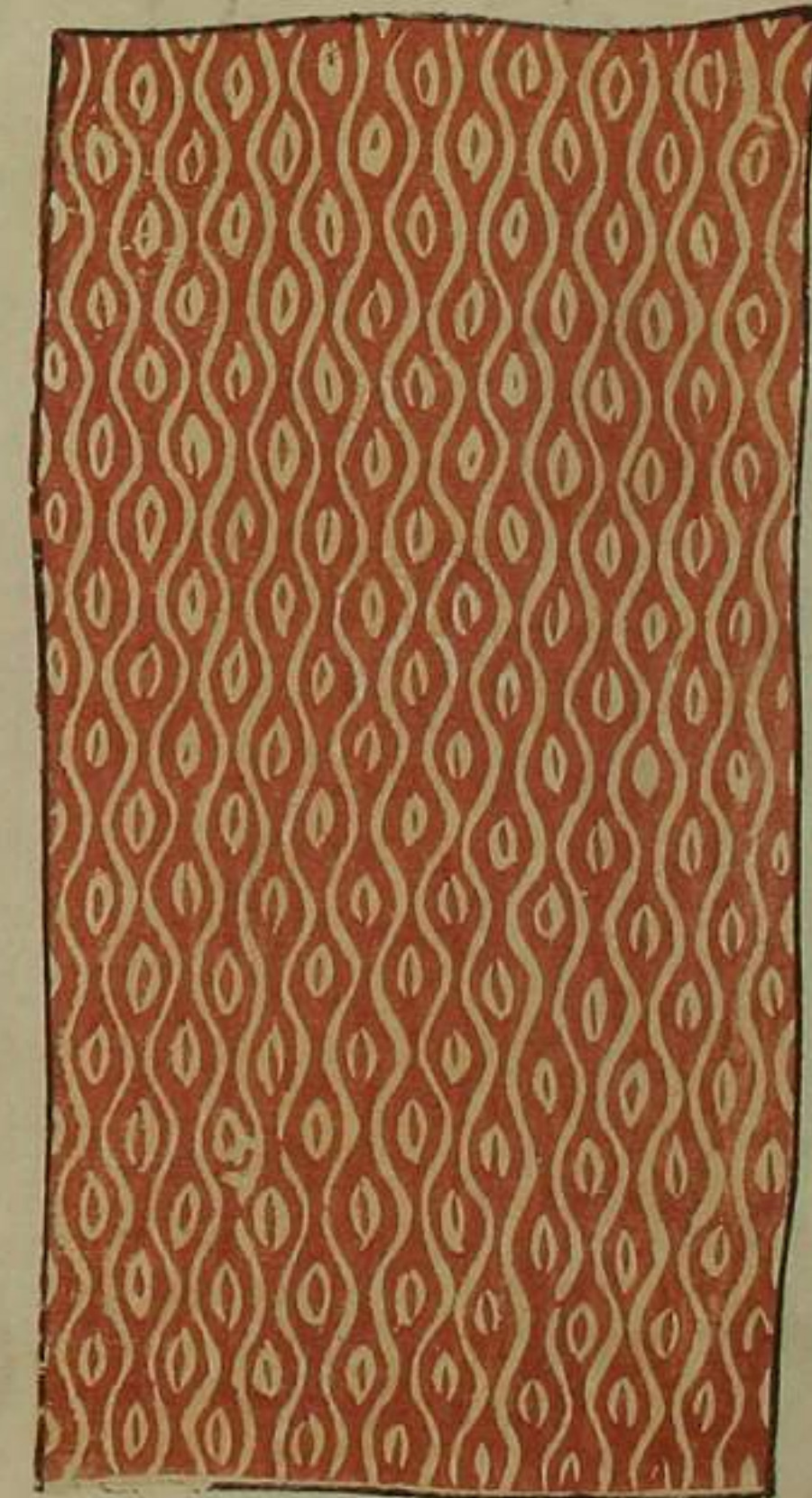
鈍薄花田文章



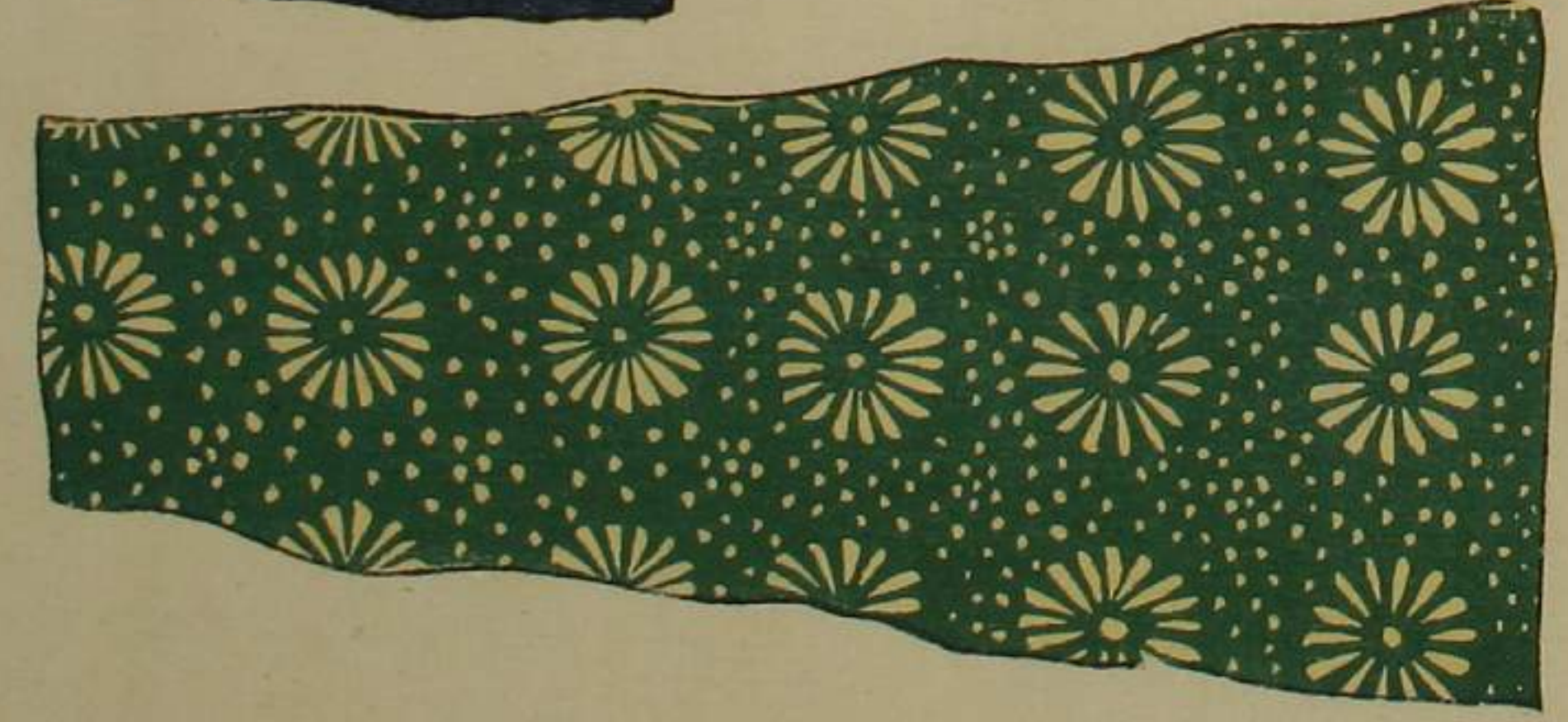
熏文白地草



水巻熏草



鶉草



黄不返の藍細文章

革究圖考

江戸

池田源義信編輯

素革

素革 華字彙各額切皮熟曰韋生曰革說文皮去其毛革更之革易也小補

韻會 徐曰皮去其毛涂而瑩之曰革禮記膚革充盈注膚是革外

之薄皮革是膚內厚皮也周禮革謂千盾也又三革甲冑盾也說文革古文

革从三十三十年為一世而道更也革革俱同也

倭名類聚鈔小革の獸の皮の毛と去ると云 和名都久利加波と見ゆ是も諸の獸の

皮と取ら脂と去り堅からむ物ゆり理皮と謂る意也今俗小鍛皮と云るもの是也

此革の諸の色と以て漆をぬれ非む倭名鈔小櫛枋革黄檀革紫革鶴革等乃

名と載て皆都久利加波と書れり誤るるめや埃囊抄小革と漆革小用ひ是と都

久利加波と云と見えりも誤を請て傳るるまゝなり延喜式小大旨皮と革と云

柑子文韋



朽葉薫韋

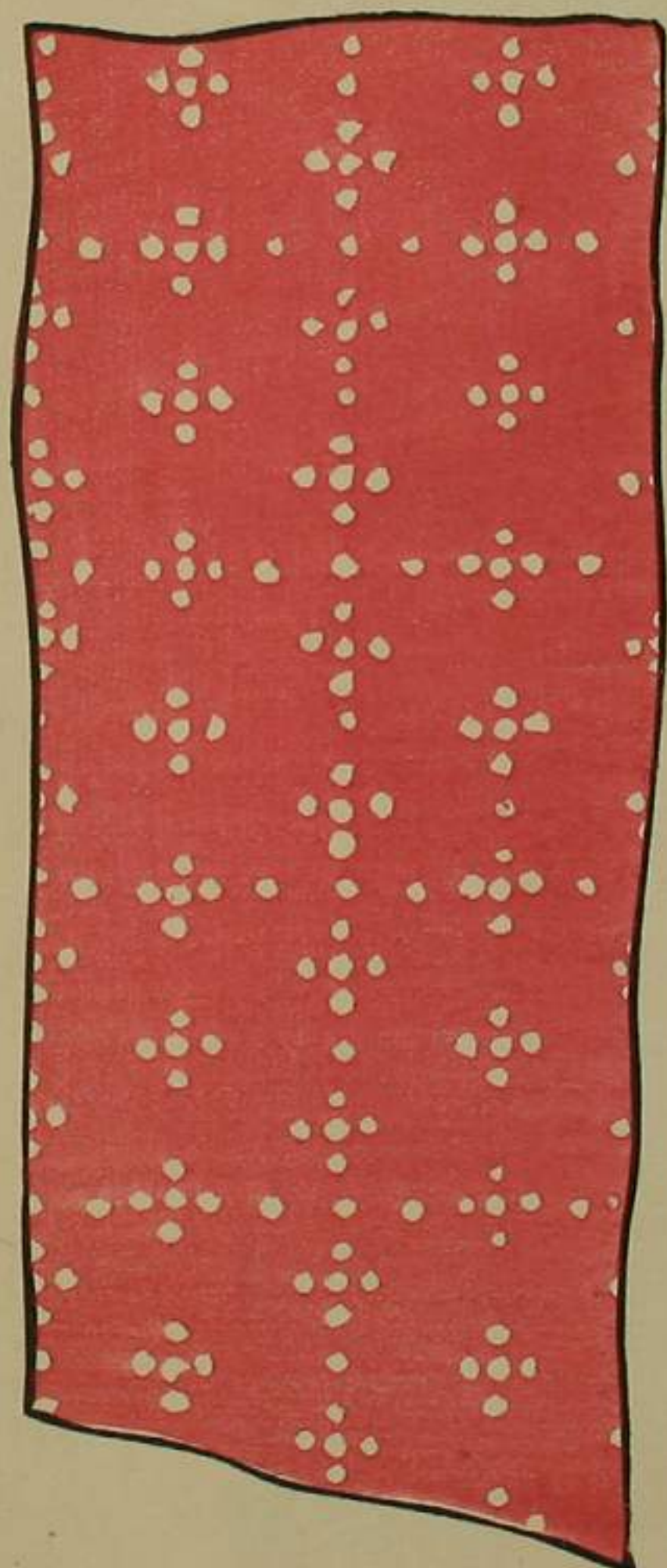


細文薫韋



勝見文韋

赤星韋



別記とさざりしと革と韋と別とさざり其文字の相似なる以て誤寫の謬なるを小
傳ト之トさざりしと皮を倭名小加波と云ふ凡生る物皆是と被まはなり釋名小皮を被也
といふも意の同一又獸の皮を剥て理むる革ハ更ると云義也皮と革と韋とを分ち稱しハ
毛ある皮ハ皮の字を用て加波と云ふ毛を去り理むる皮都久利加波と云ふ革の字を用
製り熟きて柔なりしむるを乎之加波と云ふ韋の字を用ゆ此三ツの物を總て加波と通
稱し故小文小書る小備用ひて別ざらも有るなるべし正義小曰文小射すまは皮革異
也故に掌皮と云秋ハ皮と斂冬ハ革と斂むと文と散すと通ば通ばと云へり

韋

字彙柔皮熟曰韋生曰革又脂韋言其柔韋如脂如韋說文獸皮之韋可
以來枉戾相韋背也皮剥得獸皮也強取也

新革

阿良加波といふ素改め更る義也説文小其毛を治め去る是と革め更るありと云意相似なり
温古焚彙に洗革とありと云新革と洗革と異なるべし
洗の字を用る水に浸して釋製せたり世小鹿の革を以て水に浸し雨露水濕を受けて緊す

堅がざしむる洗革と云ふんと古と考る誤説なり延喜式小洗革一百張又女靴
を造る料桂甲を修理する料等皆是と用ゆると云ふ保元平治物語平家物語
源平盛衰記太平記等小洗革威の鎧と見えたり是なり武雜記小力革ハ白滑
なぐべしと見えたり天文永祿の頃既小洗革の名ハ亡びて白滑と云ふなるべし
洗革の説文より按小阿良加波小洗字を用ゆるハ安穩なるぬぬハ新皮と書くと然
るハ新なる儀より何ら皮ハ新しき皮と云ふ略語ある洗革ハ漆革ハ名小
混とて論むるハ癖事也洗革の説も安齋先生の考証と以て是と云ふ平義器談
軍器考漂義軍用記武器考証其外諸書小見えたり素洗革と云ハ薄紅小
漆革に威しる鎧を洗革と云事ハ緋の革を洗ひ禿しる心なり参考保元物語
京師本杉原本半井本等より義朝ハ幼少の子供殺さる時兵共袖を濡す中ハ波
多野十郎ハ赤革威京師本ハ
緋威とありの鎧の袖洗革ゆなりぬんと云事見えたり印板の平治物語
ハ此の事なり是

事知るべし 字書曰華の字注小徐氏の説と引て淵て是と堂と華と引たりと

皺文章 又作内藏寮式小皺文章一張桃華並葉小靴の帯ハ皺文の革と見えり 延喜式曰

皺文と書く比波敷と訓より皮の文也 其革の文理皺皺粗らち家りのふて今俗云皺革

大倭革ふど云是あり牛の皮ふて製するなり式の雜履と縫ひ作る料の條に見ゆ享徳三年

小記云鎌倉年中行事播磨皮の白き力革と見ゆとハ播磨滑など稱するゆ也

赤滑革 赤革 鷹司家傳抄 永治槐記云如法の飾劔ハ必赤滑革の定緒を用ゆと

見ゆ後照念院殿裝束抄園大曆飾抄名目抄ふも皆赤滑是小用より見え

たり略をて赤革とも云る諸鞍日記力革ハ赤革は包よりと云保元物語盛衰記太平

記異等に赤革威とより 彈器考小赤革ハ 今神社佛寺小藏むる古き鎧の菱縫など

多く此革なり今俗小積粉革とよる然るべし

紫滑革 飾抄小嘉禎元年御佛名の次第或ハ公卿飾劔紫滑裝束なりと云西三條

裝束抄小飾劔裝束紫滑を用ゆと見えり

檀滑革 諸鞍日記小泥障とて馬の革を黒く塗る根本琵琶の撥盤と塗るあり

檀の木れ汁ゆて漆るなりと云る又抄小作系

青滑革 世俗浅深秘抄小東宮の護劔壹軒の裝束青滑革なりと延久の御記のこ此

青注注ささりと飾抄ハ青革滑と記されり 青注注ハ緑ハ青柳青葉など

藍滑革 浅深秘抄小劔の裝束奈女志の時の紫綵を用ゆと園大曆嘉祿三年の宮槐記小

劔の裝束青滑とあり藍滑の事なりと見えり 是ハ物ツ小名ナラるあり代誤寫正さる



漆革 色革 是ハ革を諸の色諸の文と漆系總ての名なり延喜式雜漆革一百六十張と

見えり其中二種の各四十張二種の各三十張一種ハ二十張と分て其名を出されりて漆革と

云ふハ捨ての名ある事明けり大和物語小太刀の緒小すき革を需ふ歌より人れ頼の

ひざりものれものろの源さ致りてやみまひし見ゆ東鑑小吉田の庄より年貢の送文の
中み漆革二十枚と見ゆ東山殿年中行事に漆革三枚畠山殿是を進上とみえりま
東鑑に永福寺薬師堂供養の時僧侶の御布施物の中み色草百枚或は三十枚と
見ゆ今昔物語小布の衣の袖色草と縫合せるとみえりも捻ての名なり

紫草 延喜内藏寮式小紫草四十張左馬寮式小紫草四條おぐみゆ倭名鈔小出の名と
載き愚管抄人車記梅松論等に紫草威とも装束圖式小是と無文紫草と見えり
古への紫草威漆し紫草と用ゆ此草亦然あり今世草と漆るもの多し蘇枋の煎汁も色
と添用ゆ古への物と少く差なり

緋草 延喜式小緋草四十張或は十條おど見ゆ倭名鈔小緋草あり江次第小犬飼ハ緋
布の料衣緋草袴とりり今鏡小物の部の緋の草と火威とわたりと見ゆ此
草とわたり古き書ハ緋威火威通し用ゆ

柔皮漆法小緋草製るの茜根と用ゆと見え古へ茜根と以て漆しと緋と云紅花の漆
志紙紅と云ると延喜式小見えり後世其實と失へり
漢土の是と鞋と云説文ハ茅蒐漆草と云韻會に赤草と注せり鄭氏の礼圖小臂
鞞ハ朱草と以て為ると云

蘇枋草 赤草 倭名鈔小蘇枋草の名見えり盛衰記小弦袋左右兵衛尉ハ赤草と
浅深秘抄小近衛次將隨身後緒小於てハ赤草用ゆと見ゆ布衣記布直衣小赤草の組
る今昔物語小紺の狩衣の着服小赤草と袖小はとみえり
濃を云ふり今も蘇枋と煎るハ黄栢と少く加ふハ色殊に鮮あり礼の月令の注ハ色深と赤とハ色浅と云と
云ハ赤草威と記せり中み古の破れ損と色ハ移るハねまとも正と云ハ赤草と書ハ赤草
古事書にも書傳ス中み文字にハ定ハぬ変ともハるハ

黄櫨草 又櫨草 倭名鈔小黄櫨草の名と載ハ飾抄小劔の装束櫨草とハ後緒も同ト
櫨草と見ゆ浅深秘抄小櫨草の緒ハ或ハ櫨草とも用ゆとみえり倭名鈔小櫨草ハ今ハ黄櫨

木和名波迹之と見ゆ是の中略を波之と云此章是で以て漆む古き物小黒草の色に如く
漆一物有り式の漆料と以て此物ある事とありぬ 安齋先生の兵器辨考小櫛ハ黄赤
ある色也今紅を云是也後成恩寺殿の女官装束抄小を紅葉の衣表と櫛枋裏黄
とあり是表裏の色赤と黄と合せると紅葉と名付る也櫛ハ木の也 枝葉
櫛の木に似たり秋の末霜小逢ハ初ハ黄小あり赤と黄と兼終小紅となる 其中比の色とは
色と云て漆物の名小呼なり 順徳院百首の御歌小「むらさきとをれ里のむらさき
あふく秋風ぞ吹く又 民部卿為家文應二年毎日歌小「ゆりまの志づる草れとたの
木小むらさき秋をけりむらさきの船

黄草 延喜式小黄草三十三條と見ゆ弓法集世小三議鞠の緒秋ハ黄草とみえり

青草 装束圖式小飾劍装束藍草青草等も亦例なりと云 浅深秘抄小無文の青草

とみえり凡草と漆る小各先施すべき法なり後小色と漆む此草藍澱と以て緑色と

あつと也青滑の條法と異なる事ハ柔皮漆法小見ゆ

褐草 藍草 倭名鈔小褐草と云爾雅小云褐ハ黄黑色也 褐ハ板字に恐らく搗の節

用集に紺地とむと訓るハ褐の字義穩なることハ是小代ハ借字用ハ一字取出せる

あつん此草藍澱と漆ると殊小濃中あり飾磨の搗漆に似ることハ也信實朝臣の歌

搗磨を飾磨小仍ハ磨るれり何れもわらの漆漆とむ盛衰記小明春ハをの鐘直垂

小紺の頭巾と云は以て紺ハ異あること多かるべ 柔皮漆法小藍浅きハ青草あり藍深ハ

褐草なりと云り是と藍草と云盛衰記小弦袋左右兵衛尉ハ藍草と云元後照念院殿

装束抄小云紫の平緒小藍草の九緒とも云名目抄小劍の装束又ハ藍草ありと云

見えり飾抄小無文の藍草と云る有文の藍草ハ有文の故なるべ

鳥草 皂草 黒草 令小女官の朝服六位以下の白襪鳥皮履と見ゆ義解小鳥皮ハ

皂皮と云と云延喜式小雜履と縫作る料小皂草とみえり鳥皮ハ鳥草あり又皂草あり

後小云黒華なるもの也東鑑保元物語平治物語平家物語盛衰記兼久記義經記太
平記梅松論應仁記等諸書小黒華威の事の出る愚得隨筆云近世山城國八幡
山の下大谷村に住せる神職十八家黒華と漆の故小八幡黒と云と見えたり或人曰大谷村の
邊り小品手村といふ所わく漆出華と品華と云と然る否を以て誤て齒染華の事する非也

縹目結章 延喜式小縹章三十張と見ゆ倭名鈔小縹章由波太加波即ち交縹あり

とみる宗五入道記小丹波目結引目章と見え目結即ち是也

是等ふ系括り漆も其文大なるも小なるも純色なるも雜りたるも

今義解小色文縹以て縹文と爲すとも式小韓紅地彩色文縹と云ふも色と縹の也亦縹

紺の縹と云ふ義解小三色名持り用事と得見えり色と交するの也式小目結下目結あり

縹目色章 伏縹目章 長門本平家物語盛衰記等の文小坂東より縹目の色章を多く

候へ佐殿の春見え亦伏縹目威の鎧の名諸書小見えり平家物語保元物語盛

衰記義經記太平記等小伏縹目又節縹目小作より異本保元物語庭訓往来より

据縹目小作より尺素往来より据索目小作より斥閑和尚の庭訓往来より附子縹

目小作より皆仮字なり伏縹目と書ゆあるあり其章の彩一色あるも三色あるも

漆の濃きも薄きも有り又濃きと淡きと成重祿係九折小漆より小角有り有り丸を

付するも有り其章を裁く威する文幕の手の縹と伏する如く見ゆ故小伏縹目と

名つけあり縹目色章といふを以て其品の多き故知あべきなり

引目章 縹引目章 宗吾入道の記小素袍の紐丹波目結引目章あどを付とも上覽

記小鞘卷の下緒へ引目章ありともる柔皮漆法小縹目章と作る事と記せし中に

糸を以て纏ひ漆を以て縹引目といふ見えり章の文の様も号し義も詳あり武州御嶽の

社小藏むる畠山庄司の鎧曹の肩庇の裏と包し章是小相似より古く有けるものあり

此と其名の聞え引目と云る名のみえの東山殿の頃よりぞりりけり
古黄不返一八九
七引此目引華の返一引紋の華と心得
言はれしとこの甚と云るを誤り

色筋章 文明殿中日記小西筋章三枚とみゆ諸の色り事ハ推くもるべし

畫章 天平章 正平章 延喜内藏寮式小画章二十張と見ゆ
軍器考補正小甲曹の所々包める色華の昔各賜

名をとりしはあど聞もはるまじくあれども延喜式のみを画章と云る是より 此画章とりゆの種々の文りるべし画章とりゆの拾くれ名おて其文小倚て名とまうけ何々の画章と云るるべし

天平章 正平章と云い古にりりて画章と云い物あるべし天平章 正平章と云い名ハ近き世の俗ハ出る所ハ古書ハ聞え引近來造り出せるものハ不動尊像獅子牡丹あど古の文小倣て製すれども古の製小比すは殊ハ拙ハく鎧造るべし料ハ充ぐる菊地佐傳記附録小曰天平章の板肥後國八代古閑橋の邊ハりり

土人の説小天平章ハ中ハ天平十二年八月とりりて不動像及び八幡の二字并梵字等
有り神佛の像ハ故商買と忌憚りけり征西將軍懷良親王ハ八代の高田小侍りり時
中ハ南朝の正平年中ハ別板と彫りて給ふ是より御許と得りて正平御免章と稱し
此板ハ正平六年六月朔日とあり諸國正平漆の権輿あり
武林原始ハ是と引きたり 軍器考小曰正
平章と云い物異邦より來るとも又南朝の朝廷ハ漆せしとて嘉慶の頃鹿苑院公
方ハ紀伊國矢田の庄より其板ハ進せしと云異朝の物ありと云事心得も南朝の号
ハ其六年ハ南北一統と北朝觀應の号と止めしと天下悉く正平六年と号ハ再南北分
とて南朝ハ終小亡びさせぬと其号ハ空く此章小止りぬ紀伊國ハ從來南朝の領させ
ぬハ所ふれハ後小此物彼國より出ると云事さなりぬ軍器考補正小云肥後國より
漆出る物と肥後章と云天平十二年八月と云文字と今に漆りりある故也餘ハ小舊
年号ハりりるや往古の漆様をんハ脇盾と包む章も漆付りりる年号ハ古ハ

此包料なほ不審一安齋先生の軍器考頭書小正平御免草ハ即ち今の正平草ナリ此
外小御免草と云のりり赤黒色小白く文と出せる漆草ナリ紫に白文ナリ錦草と
室町將軍の御物小用ひ一故常人の用ることを禁せらる赤黒色小白文ナリ御免
誰も用る也其色紫小似するといども正した錦草小非ざる故御免也と見えり

牡丹獅子文章 高館草子志太草子ナリ獅子小牡丹の脇楯と見えり此草ナリ
今も古き鎧の世小存るは見えり此草を用ひり多し其色の紺あると朽葉色あると文の
大なると少きとありと遠き世の製と近き世の製と其品多きと一擧て書き置るは
南朝より前の物とも藍く漆しと藍正平といはれ僻事ナリ
牡丹花の王の獅子と獸の王とせるや
其語より物の模様小付りたるべし

不動尊像文章 藝州嚴島社の秘藏源義家朝臣御着長と云物物の弦走りの草是也
往古の多く藍澱とて漆しと後より朽葉色の黒り物小漆し小此草今肥後の國

より漆出さりの小天平十二年八月日とあり此草の獅子小牡丹の正平草といふりり

獅子圓文章 布衣記小力草獅子の丸く包むと云高忠聞書小鞭の執柄獅子の丸草為は

獅子面文章 布衣記小切付の水豹皮上鋪同く皮或ハ獅子の面草と云

原高忠聞書に錦草と云面草の事ありと見えり東山殿の時の物移りて名正し

飛禽圓文章 三笠山本談義屋小藏の鎧の中此草を用一領ナリ

窠の文章 嚴島社小藏の古き鎧の窠文の草及び古き物小みえり此草昔ハ

名も有る未記せるものと見え

雷公風伯文章 南都春日神社小藏むる鎌倉右大将の納めし御鎧曹の吹返しと包

みよりの此章をり未他小なること候と云ふ

鳩文章 是も前小謂る御曹の眉庇と裏める章あり軍中鳩の祥瑞と記せる諸書に出る鳩の八幡ははるゝと云ふ其象に似るもの

雲珠文章 南都興福寺小藏る義家朝臣鎧梅檀の冠板と裏るもの是なりまゝ鞞

馬寺にある古き甲冑小もみえり

龍文章 嚴島社小藏る大内義隆の甲冑悉く此章也春日社小藏る鎧小もみえり

豹文章 春日社小なりける古鎧の革是あり

彫文章 此章の文と色の虎小似るより号くわぶ薩戒記小繪尻鞞の地虎の文是と

彩りある衣は此章虎の皮小似て尻鞞小用ひしも多ぶるべ

鴛鴦文章 高館草子に鴛鴦の脇盾とみえり則漆章の文と似たり

錦章 飾抄小箴吹返し錦章とみえり享徳御鞞記小錦章の鞞とみえり弓法秘書は錦

章と云ふ面章の獅子の無きやうなる物と云ふ装束圖式小も箴の装束錦章と用る

みえり其文様々あると決定するに定むる色と誤る事も然り也今の世小御免章と云ふ是

と云ふあり貞丈軍器考頭書小錦の赤章と云ふは茜小に漆く白く文と出ると云ふべ

室町殿の頃錦章と云ふ將軍の外用ることを禁ぜりしに紫に漆く白く花形唐草など

漆出せりし平人の禁ぜりし故柀色小漆く白く紋と出ると云ふ誰も用る故御免章と

名付りたり今御免章といふの古より名をり錦章と別あり

錦文赤章 盛衰記小腰刀に錦の赤章下ぐて火打袋と云とみえり其文錦れ如くあり

赤色に漆くあり小紋の赤章と異なり

細文赤章 古の鎧漆章と以て裏める處の縁多くは赤章にり星五つ宛攢或は四辨花の様

なる物と白く漆出せりし用也是と俗小釋章赤星と云ふ盛衰記小小紋藍章とみえ

と云ふ小紋赤章の所見ありしとも准じく是小似ふ古の画の袍の文小四辨花の水藻を画するもの世小藻むるもの其花むるもの此章は

武具小勝身との今ハ祥瑞ありて勝武華との今ハ
昔浦草は假字を多くて總じて軍陣の勝利の正との故也
ア井カハ せいさいき ぶけのり

細文 藍章 盛衰記平家物語小白山が旗に印に小紋の藍章を押しとみえり鎌倉

將軍家之記飾抄に黒漆の劍の裝束無紋藍章とみえり有文なるものも前

あまゝ東山殿の頃記せり小帯取ハ昔浦草なり見ゆれば猶ほ前

の來りぬやさき有文と云も細文といふも昔浦草の下なるもあまゝ

昔浦草 古の製の今世の物と殊小勝より御嶽の社小藏の鎧小花と覺し形

に水鳥あり是等ハ總て古小其名聞えり宗五記ハ帯取昔浦草なりとも高忠聞書

小行騰の緒昔浦草ありとも三光院内府記ハ白太刀昔浦草の帯取なりともみえり

諸書當用抄ハ弓袋の化粧章 豎昔浦草と見ゆ軍陣聞書ハ豎昔浦草と云ハ昔浦草

かり右と云とみえり共小其頃の名とを覺ゆ今ハ俗ハ杉立昔浦草といふ其文杉の

叢と遠く望小似とみえり瓜形昔浦草文藍章是ハ章の製漸く下り形の工と省きて

其文の形のミ添り瓜形の如くみゆると以て俗ハ呼あせりなり野馬昔浦草文藍章軍

陣聞書ハ昔浦草と横昔浦草ハ駒の文に交りるとみゆ是駒形

昔浦草なり蘆雁昔浦草文藍章春日の社小藏古き鎧ハ此章を用い所あり

楓鹿昔浦草文藍章嚴島社小藏ハ義家朝臣の鎧とを用以所あり花形昔

浦藍章甲州管田天神の社小藏ハ小鎧にある所あり

世ハ昔浦草を勝武章と書しゆり前ハ勝利を祝する義ハ昔浦草ハ物ハ世ハ

聞えり和名鈔ハ銀面の昔浦草形なり軍器考頭書に昔浦草ハ古代藍白地と云

ハ章ハ其中の一種なり小櫻章も藍白地の中の一種なり白地ハ總名小其

文ハ種々あり其文に依て名はるるなり

齒朶章 盛衰記ハ此奈章威とハ藍章の文ハ志とを付たりける

此奈章品章科章四奈章と文字と假用ハ也齒朶ハ正月是と用と下學集に

一本盛衰記ハ此奈と葉ハ
寫誤りもみえり

推當て載るもなり全體の文大なるの寡く出して削厥の勞を厭ふも多し予從來
 此事小預る職小なりねば委く其真と知事あるを唯画巧と以て業と爲ふは
 古の甲冑とも彩まる為小摸寫せしと書肆の需小應下て是と與ふ古書と引藏
 する所故も載し猶後に古故好る人の補正と俟の一端あるは翼を謬誤と正し
 拙さ故見ゆりて云事故義信再誌

江戸

池田善司義信編輯



時維弘化二年歲在乙巳春三月發市





源

田

城

書

源田
藏書

好古
集覽

革究圖考

完

150

才二五〇号

京都經不井神光寺上
源密徳太郎